

氏 名 (本籍)	岡 本 紀 子 (岡 山 県)			
学 位 の 種 類	博 士 (ヒューマン・ケア科学)			
学 位 記 番 号	博 甲 第 5856 号			
学位授与年月日	平成 23 年 3 月 25 日			
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当			
審 査 研 究 科	人間総合科学研究科			
学 位 論 文 題 目	高齢者ケアを担う看護者と介護者の手指衛生に対する意識の構造と感染予防教育の課題			
主 査	筑波大学准教授	医学博士	柳 久 子	
副 査	筑波大学教授	博士 (ヒューマン・ケア科学)	松 田 ひとみ	
副 査	筑波大学准教授	博士 (保健学)	橋 爪 祐 美	
副 査	筑波大学准教授	博士 (医学)	人 見 重 美	

論 文 の 内 容 の 要 旨

(目的)

高齢者施設における感染症の発症を防ぐため、看護者と介護者の趣旨衛生の意識と感染予防教育の課題を明らかにすること。

(対象と方法)

研究 1 介護老人保健施設または介護老人福祉施設に勤務する看護者 255 名に対する手洗いに関する意識調査質問紙などによる自記式質問紙調査。

研究 2 高齢者ケアの経験のある看護師 17 名に対する半構造化面接調査。

研究 3 介護老人保健施設または介護老人福祉施設に勤務する介護者 758 名に対する手洗いに関する意識調査質問紙などによる自記式質問紙調査。

(結果)

看護者と介護者の感染予防意識は、学習意欲、実践、責任によって構成されていた。手指衛生の実践に関するパス解析の結果、看護者では、責任は学習意欲に、学習意欲は実践に正の影響を及ぼしていた。また手洗いの手本となるモデルが存在することによって、実践と責任が高められることが示唆された。一方介護者では、学習意欲は実践と責任に正の影響を及ぼし、手洗いモデルの存在により実践と学習意欲が高められることが示唆され、介護者と看護者では、パスモデルに違いが見られた。

(考察)

看護者と介護者の感染予防意識は、学習意欲、実践、責任によって構成されていたことから、職種に関わらず、これらは感染予防の重要な要素であると考えられた。パス解析により、手指衛生の実践には、手洗いモデルの存在と学習意欲の充足が重要であることが示唆された。

審 査 の 結 果 の 要 旨

博士（ヒューマン・ケア科学）学位論文審査委員会を開催し、審査委員全員出席のもと最終試験を行い、論文について説明をもとめ、関連事項について質疑応答を行った結果、審査委員全員一致で合格と判定した。よって著者は博士（ヒューマン・ケア科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。